



こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF
EDUCATION LIBRARY NEWS



LEVEL UP!



特集

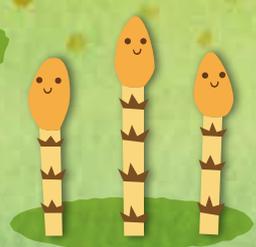
先輩に聞く! レポートの書き方(2)

小特集

読書会を はじめよう!

CONTENTS

- 02 図書館インフォメーション
- 04 特集 先輩に聞く!レポートの書き方(2)
- 08 小特集 読書会をはじめよう!
- 10 自著を語る
- 11 学生の読書室
- 12 子ムエの本棚
- 16 図書館と本のエトセトラ



展示会「国語教科書のなかの作家たち — 漱石・賢治・太宰・敦」を開催しました

平成29年7月11日～8月10日まで、教科書展示会を開催しました。この展示会では明治時代から現代に至る小・中・高等学校の国語教科書を取り上げ、それらに採録された夏目漱石・宮沢賢治・太宰治・中島敦など、日本近代文学における著名な作家の生涯とその作品を紹介しました。7月11日には、佐野幹（本学講師）、中地文（本学附属図書館長）、木戸浦豊和（本学附属図書館職員）の3氏によるトーク・イベント「定番教材を考える」を開催し、それぞれ太宰・賢治・漱石の作品と教科書との関係について解説をしました。



展示会場の様子



トークイベント(佐野幹先生)

「学校図書館メディアの構成」の成果を 附属小学校・中学校で展示しました

司書教諭資格科目「学校図書館メディアの構成」の授業では、受講生がテーマ展示に取り組んでいます。今年度の学びの成果として、学生が飾り付けたブックトラック13台を附属小学校と中学校の図書室で展示しました。期間は平成29年10月27日から平成30年1月26日まで。小中学生は、大学生が趣向を凝らして作った展示に興味深そうに眺め、多くの本を手にとっていました。



附属小学校の展示



附属中学校の展示

スパイラル・セッションを開催しました

附属図書館は、読書を通じた体験型のイベントとして、さまざまなテーマで「スパイラル・セッション」を開催しています。平成29年度の後期には、次の8つのイベントを実施しました。

月日	タイトル	講師など
8月9日	対談 宮川健郎×中地文 児童文学とは何か、児童文学研究とは何か——その楽しみと意義	宮川健郎先生(武蔵大学教授)、 中地文先生(附属図書館長)
12月7日	カズオ・イシグロの作品及び日本との関わりについて	林宜佳氏(東北大学大学院生)
12月 14日～20日	先輩直伝!レポート攻略法 ※特集「先輩に聞く!レポートの書き方(2)」で詳しく紹介しています。	附属図書館学修サポーター
12月20日	クリスマスカード・ワークショップ (教員キャリア研究機構(特別支援教育研究領域)との共催)	水谷研究室+ 情報・ものづくりコース2年生有志
1月9日	仙台市図書館の取り組み——0歳から読書に親しむ暮らしのために ※子ムエの本棚で詳しく紹介しています。	村上佳子氏(仙台市民図書館長)
1月15日	読書会 マンガのことばとオノマトペ (ビブリオバトルサークルBIBLionとの共催) ※小特集「読書会をはじめよう!」で詳しく紹介しています。	津田智史先生(国語教育講座講師)
1月25日	講演会 ことばとジェンダー (男女共同参画推進プロジェクト共催)	川崎惣一先生(社会科教育講座教授)
2月13日	第158回芥川賞・直木賞と宮沢賢治	中地文先生(附属図書館長)、 島森哲男先生(国語教育講座特任教授)



対談 宮川健郎×中地文



カズオ・イシグロの作品及び日本との関わりについて



クリスマスカード・ワークショップ



講演会 ことばとジェンダー

先輩に聞く!

レポートの書き方(2)

2017年12月に5回にわたり、図書館学修サポーターによる「先輩直伝!レポート攻略法」を開催しました。5名の学修サポーターが、これまでレポートを執筆してきた体験を踏まえ、よりよいレポートの書き方を講義しました。どうすれば課題に沿ったレポートが書けるのか、また資料の探し方や書き方のコツなどを、それぞれ創意工夫を凝らしながら、解説しました。今回の特集では、その熱意あふれる講義の様態を報告します。

●社会科院生によるレポート作成講座

大学院社会科教育専修2年 前田 諒

今回のレポート講座は、「レポートとはどういうものか」という基本的なところから始め、レポートで評価される点や、実際の作業の流れを示しながら、レポート作成という行為を客観的に見つめなおすことができるような構成を意識して作りました。

本発表では、学部生の方々がレポート作成の作業の中でつまづく点を、資料の収集と考察だと推測し、重点的に解説しています。資料を集め、データを整理することは、深い考察をする基となるため、レポート初心者には特に重要な作業だと考え強調しました。そこで紹介した、①資料に書き込みながら読む方法、②分かったことを箇条書きで書きだす方法、③図式化して整理する方法などは、是非一度実践してほしいところです。

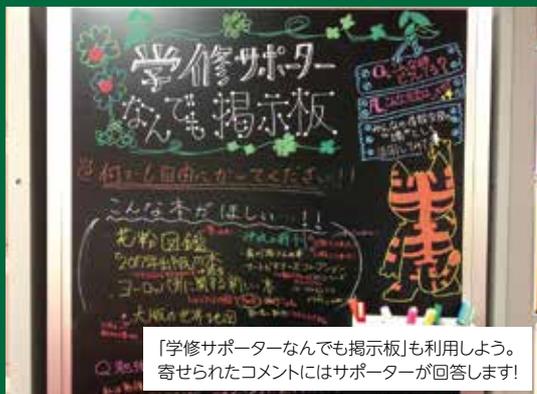
時間の都合上、構成や引用の仕方など、細かい内容までお話しすることはできませんでしたが、今回お伝えできなかった分は、『Eメール』や学修サポーターを利用するなどして、補ってもらえればと思います。



学修サポーターって?

「学修サポーター」は、図書館で学修支援を行っている学生スタッフです。資料の探し方、図書館の使い方、レポートのまとめ方、パソコンの使用方法、授業案作成のヒントなど、お気軽にご相談ください!

学修サポーターの担当や活動時間などの詳細は、図書館ホームページで次のアイコンをクリックし、確認してください。



「学修サポーターなんでも掲示板」も利用しよう。寄せられたコメントにはサポーターが回答します!

●レポートの書き方講座——木曜担当学修サポーターが語るぶっちゃけ話

初等教育教員養成課程 理科コース4年 小山 晃徳

今回のレポート書き方講座の中では、大学4年間の経験から、大学に入学したばかりでレポートも書いたこともないような1年生が、どこで躓くのか、どうすればできるようになるのかを説明しました。

内容を大きく分けると、「(1)レポートを課されたときに学生が陥りやすい思考」「(2)分かりやすい文章を書くために」「(3)理解に応じた文献の活用方法」「(4)宮教大図書館の活用方法」について説明しました。文字数指定があると、一文が長く読みにくい文章になりがちです。分かりやすい文章を書くためにも、一文をできる限り短く構成することを意識しましょう。分かりやすい文章は高評価につながります。

学修サポーターは、学生のための「何でも相談屋」です。学生生活で困ったことがあればできる限りのサポートをします。カウンター横の緑ジャンパーの人を是非ご活用ください。



●レポートの書き方講座と実例紹介

教職大学院1年 佐藤 仁紀

レポートは、「相手の議論や主張を理解し」「根拠をもって」「返答する」ことが求められます。何を書くように求められているか、引用は適切か、そして、求められている問いに正対しているかを、書き始め・書きながら・書き終えた後、どのタイミングでも考え続けることが大切です。課題をまとめることは、自分が講義を通して身に着けた知識と、知識を基に文献調査をして得た知識とを深められるいい機会です。ただ漫然と書き進めるのではなく、先行研究をまとめ、構成していくことで、学んだことをはっきりと振り返ることができると思います。これは、講義だけでなく、卒業論文や教員採用試験、実習の指導案などにも活かされる作業です。この場限りの提出物だと思わず、自分を成長させるためのステップだと思ってレポートと向き合ってみてください。

「先ず臆より始めよ」。悩む前にまずやってみましょう。皆様の学びを応援しております。



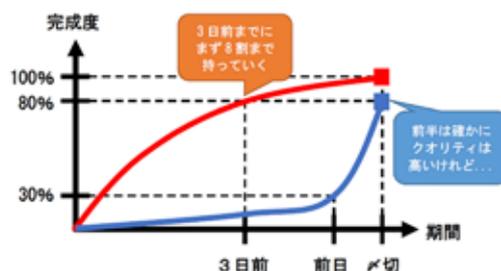
●今さら聞けない…。レポート学入門

教職大学院2年 菅原 恭平

今回のレポート作成講座では、新入生に対してレポートとはどのような心構えで臨めばよいのかをお伝えることに主眼を置き発表内容を精選しました。

大きく分けて「①筋の通ったレポートを書くために」、「②期日までにしっかりとレポートを仕上げるために」、「③自分だけの角度で物事を考察するために」を3つの柱としてお話ししました。中でも②の「期日までにしっかりとレポートを仕上げるために」に必要な心構えのところで示したもの(図参照)は、レポートに取り組む際に参考にいただければと思います。まず3日前までに8割を仕上げることを心掛けてほしいと思います。往々にして最初にこだわりすぎて、後々苦しくなるパターンが多いのではないかと感じています。

また、『こもれび』を手にとってくださり、この文章へたどり着いたあなたへ。是非レポートをもう一段階ステップアップさせるために、宮教大図書館が発行しているレポート作成の教科書ともいえる『エール』をご一読いただくか、毎日カウンター横で利用者のお力になれる日を夢見て待機している学修サポーターをご利用してみてください。そうしていただければ、これほど嬉しいことはありません。



●学修サポーターによるレポート作成講座

教職大学院2年 鈴木 貴大

お伝えしたい内容は大きく2つあります。1つ目は教師がレポートを出す目的とシラバスについて、2つ目は信頼できる情報の集め方についてです。

教師がレポートを出す目的の1つは「講義やテキストの内容が十分に理解されているかどうかを見るため」です。また、レポートは「講義を行った教師と、あるテーマについて対話を行うこと」でもあります。講義内容が十分に理解されているとはどういう状態か、教師がそのテーマに対してどのような主張を持っているのか、というのは講義の“シラバス”を見ることである程度分かる場合があります。「授業の到達目標およびテーマ」や「評価の観点」を見てみるといいでしょう。シラバスに掲載されている“参考書等”はレポートを書く際に非常に役に立ちます。レポートに取り組む前に一度シラバスを見てみると新たな発見があるかもしれません。

信頼できる情報は、通常の図書だけでなく事典、辞書、年鑑等の参考図書、雑誌論文からも得ることができます。これらは、レポートを書く上で非常に参考になります。参考図書は図書館で閲覧可能なので、ぜひ図書館へ足を運んでみてください。



学修サポーターに聞く！レポート作成Q&A

Q. どうしてもやる気が出ないときは、どのようにすればよいですか？



前田

執筆スケジュールをもう一度確認してみましょう。
ちゃんと計算すると、意外と無駄なことをしている時間がなかったりして……。



小山

やる気を削ぐもの(スマホなど)を排除して、集中する環境を整える。そこから、やれる作業からとりあえず始めてみましょう。



佐藤

どれほどの労力が課題に対して必要かを測れないことが原因です。
課題の全容を把握し見通しが持てれば、後はやるだけです。



菅原

まず10分だけパソコンと向き合って、タイトルや名前を書くだけでもいいです。
スモールステップでレポートに向き合えた自分を認めてあげるところから始めましょう。



鈴木

私は場所を変えて取り組んでいます。いつもと違う場所で行うだけでも緊張感がでて取り組みやすいです！

Q. 与えられた課題やテーマを正確に理解するには、どのような点に注意すればよいですか？



前田

教科書や概説書など、複数の書籍を比較しながら、テーマの概要や研究上の位置づけなどを捉えることが大切です。



小山

教授に直接確認することもひとつの手だと思います。明らかに失礼な質問を除けば、教授からアドバイスをもらえるでしょう。



佐藤

自分が課題を出す側に立った時に何を求めるか考えてみましょう。問われていることを明確にすることが重要です。



菅原

課題の字面のみで判断するのではなく、講義の中でとったノートや配布されたレジュメと課題の関係性を考えることが大切です。



鈴木

少しでもわからないと感じたところがあればそのままにせず、友だちや先生に聞いて確かめることが大事だと思います。

5人の講義のレジュメを附属図書館1階学修サポーター席で配布しています！

読書会をはじめよう!

最近、大学生の読書離れが話題になっています。そんな大学生の読書推進のためのイベントとして、2018年1月15日(月)に附属図書館とビブリオバトルサークルBIBLionとが協同し、スパイラル・セッション「読書会 マンガのことばとオノマトペ」を開催しました。講師を務めてくださったのは、国語教育講座・津田智史先生です。参加者は学生を中心に、約30名。普段の授業ではなかなか聞くことのできない「マンガのことばとオノマトペ」の関係について、津田先生のコレクションのマンガをもとに楽しく学びました。その要点をBIBLionのメンバーが報告します。



国語教育講座・津田智史先生

BIBLionメンバーからの報告

1. マンガの言葉の表現

マンガのオノマトペを掘り下げるにあたって津田先生から、はじめに小説やアニメとは違うマンガ独自の言葉の表現とはいったい何か?について教えていただきました。先生が注目されたのは特に人物が台詞を喋る場面。マンガの言葉の表現では人物の『話し言葉』を捉えることが小説との一つの違いとしてまず挙げられました。「やはり」⇒「やっぱり」、「もう」⇒「もー」など。)次に挙げられたのが声の特徴をどう表すかという点です。これはマンガでは一般的に吹き出しの形と大きさ、セリフの文字の大きさと字体で表しますが、時には本来濁音が付かない文字にわざと濁音を付けることによって声が裏返った様子を表す『ネオ濁音』と呼ばれる変わった手法もあり、そういったセリフの表し方一つでも非常に自由に人物の声質や性格を表し分けられるマンガという媒体ならではの表現の性質に「マンガの言葉」の奥深さを感じることが出来ました。

(中等教育教員養成課程 美術教育専攻1年 安藤正宣)

2. マンガのことばとオノマトペ

まずオノマトペについての説明をいただきました。オノマトペは2種類あり、現実の世界の物音や声を写し取った言葉を擬音語、現実世界の状態をそれらしく写し取った言葉を擬態語といいます。擬音語はカタカナで、擬態語はひらがなで書かれることが多いです。

マンガには多くのオノマトペが使われています。先生が例として挙げた中に、サンダルの足音の表現についてのものがあり、嬉しいときは「かっぽ♪」、焦っているときは「かぼっ」というような使い分けがされていました。異なるマンガ間になると一層オノマトペに個性があり、「ぶしゅー」「うごうご」など、一見わかりづらい独特の表現も存在します。音が持つイメージ(音象徴)の観点でもお話をいただきました。ケーラーの不思議な図形を用いたもので、人は音と形を結び付けて考えることが

あると分かりました。

今回、改めてオノマトペがマンガにとって重要な役割を果たすものだと知ることができました。

(中等教育教員養成課程 美術教育専攻1年 太田美優)

3. オノマトペを作ってみよう!

マンガで使われることばについてのお話を聞き、最後にやった活動は「恋に落ちた時のオノマトペ」を作ることでした。実際にあるマンガや小説の場面などを例に挙げ、先生が今までに見た恋に関するオノマトペを紹介しました。そして、参加者全員がオノマトペを考え、紹介しました。皆それぞれの意見を聞いて、納得して頷いたり、へえっと感心したり、笑ったりしてオノマトペを楽しみました。

最後に先生がまとめて、恋に落ちたオノマトペの種類や傾向についてお話していただきました。推薦図書なども紹介して頂きましたが、ざっとお話を聞き図書を見ただけでも、オノマトペがとても奥深い世界で、これからも変化し続けるものであることがうかがえました。

実際に紹介した恋のオノマトペでは、胸が締め付けられる音、高鳴る音、中には交通事故のような音というような面白いものもありました。留学生の方が思うオノマトペなどは特に興味深かったです。初めての体験でしたが、オノマトペについて議論しあうのもなかなか楽しいものでした。

(特別支援教育教員養成課程

聴覚・言語障害教育コース2年 真壁詩織)

●津田先生の推薦図書(1)「オノマトペ」について

- 小野正弘編『擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典』小学館、2007年10月
- 窪菌晴夫編『オノマトペの謎——ピカチュウからモフモフまで』岩波科学ライブラリー、2017年5月
- 山口仲美編『擬音語・擬態語辞典』講談社学術文庫、2015年5月(同『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』の改題文庫化)

BIBLionメンバーの感想

今回の読書会で、マンガのことばとオノマトペの表現について深く考えることができました。

今までマンガを読むときに文字の表現に注目したことはあまりなかったのですが、作者の伝えたいことがことばやオノマトペの表現に込められているのだと思いました。これからは、ことばやオノマトペの表現にも注目してマンガを読みたいです。また、少女マンガか少年マンガか、動作を行っているのが女性か男性か、などという理由でどのようにオノマトペが使分けられているか、という話が大変興味深かったので、実際に読み比べてみたいと思いました。

(中等教育教員養成課程 美術教育専攻1年 太田美優)



オノマトペと言えばマンガに必ずと言っていいほど関わってくるものだと思いますが、今回そのオノマトペの具体的な活用を考えるのはとても面白かったです。津田先生の紹介された漫画を見て、マンガの中でも少女マンガの方が少年マンガに比べてオノマトペの音や描き方の種類が多いことに気がついたのですが、これは描き手読み手の感受性にも関係してくる違いなのかなと思いました。オノマトペは音の出る具体的な状況、人、物によって意外にも作者の個性や世界観を読者に伝える媒体でもあり、今後もマンガのオノマトペの可能性は広がり続けると考えられます。

(中等教育教員養成課程 美術教育専攻1年 安藤正宣)

今回の読書会はマンガ好きの自分にとってとても意味のあるものになりました。自分は普段からマンガをよく読み、様々なオノマトペを見かけてきましたが、それについてあまり深く考えようとはしてきませんでした。気にしてみたりしても、ただ絵の中で起きていることを伝えやすくしているものぐらいとしか考えてきませんでした。しかし、普段あまり気にしないような小さな文字や目立たない文字こそがマンガをより豊かにしているのを知ったと同時に、それを考える作家の方々の努力に驚かされました。ただ物語を読むのではなく、そこに書かれている文字の一つ一つの意味をじっくりと考えることでよりマンガを楽しむことができることを今回の読書会で学ぶことができました。

(初等教育教員養成課程 数学コース1年 伊藤謙伸)

マンガは私たちにとってはとても身近なものでしたが、何気なく楽しんでいたページの中には実はたくさんの表現の工夫が組み込まれているということが分かり、マンガの楽しさと言葉の豊かさを改めて実感することが出来ました。「かっぽかっぽ」「ぶしゅー」「うごうご」など、オノマトペに注目してみるとマンガの世界にはそこでしか聞くことのできないような音が溢れていることが分かり、普段なら気にも留めないだろう細かい部分にまでマンガの楽しさが詰まっていることを感じました。今度からはマンガの「音」にも耳を(目を?) 傾けたいと思います。

(特別支援教育教員養成課程

発達障害教育コース3年 鈴木あかり)

自分はマンガが好きで、普段からことばについても気をつけて読んでいたつもりでしたが、新しい発見が多くありました。「叩く音」について、少年向け・少女向けコミックスで音が同じなのに、書き方が違うというのが興味深かったです。オノマトペは音を表しますが、でもやはり視覚的な情報でもあるので目で見ても印象が違います。それに改めて気づけたし、本当に日本語は変幻自在だなと感じました。もっと見てみたい、自分でも調べてみたいと思わせられました。短い時間ではありましたが、日本語の面白さを感じる事ができたと思います。

(特別支援教育教員養成課程

聴覚・言語障害教育コース2年 真壁詩織)

オノマトペと聞くと、小説や詩に使われているイメージが強かったのですが、マンガでも多くのオノマトペが使われていることを知り、面白いなと思いました。

マンガを読むときは絵に注目しがちですが、ことばの一つ一つに注目してみると、とても考えられてことばを選んでいるということが分かりました。そのマンガ独特のオノマトペもあり、ことばがよりそのマンガを魅力的にしているんだなと思いました。特に食べ物に関するオノマトペがたくさんあり、絵だけではなくことばからも食べ物の美味しさを表現していることを知りました。

(特別支援教育教員養成課程

視覚障害教育コース3年 八木ゆきな)



●津田先生の推薦図書(2)「音象徴」について

- 川原繁人『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』岩波科学ライブラリー、2015年11月
- 川原繁人『「あ」は「い」より大きい!?—音象徴で学ぶ音声学入門』ひつじ書房、2017年11月

自著を語る

宮城教育大学の先生方に「自著」に込めた想いを語っていただきます。



英語教育講座 准教授
鈴木 渉

『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』

大修館書店、2017年8月

2020年4月から、高等学校だけでなく、中学校の英語授業も英語で行うことが求められています。しかし、残念ながら、そのような指導を受けてきた、英語教員や学生はほとんどいません。むしろ、英文を日本語に訳したり、日本語による文法解説を聞いたり、空所補充・並び替え等の文法問題を解いたりしてきた人がほとんどです。つまり、多くの英語教師やこれから教師になろうとする人たちは、日本語に頼らずに、リーディング、リスニング、文法指導を行うという新しい英語指導法を身に付ける必要があります。そのため、本書では、教室で英語を教える際に必要な指導法や学習方法に関する理論を解説するだけでなく、中・高等学校で現在使用されている検定教科書の例を豊富に用意することで、新しい英語指導法を習得できるように書かれています。新しい英語指導法に関する研究を世界に発信し続けている国内外の研究者と共に執筆しました。是非、ご一読いただければ幸いです。

『詩の教材研究——「創作のレトリック」を活かす』

教育出版、2017年4月

教科書の詩を読んでもどこがいいのかよくわからない、子どもそれぞれに受けとめ方が違う詩を授業でどう指導すればよいのか自信がないなど、教師たちにとって国語科の詩教材はあまり評判が良くない。本著『詩の教材研究——「創作のレトリック」を活かす』は、小学校の詩教材を中心に、そうした教師たちの多くの声に応えようとしたものである。

海外の詩のように定型や韻律をかならずしも創作のルールとしない日本の詩は、口語自由詩を中心に発展し今日に至っている。つまり、日本の詩は、定型や韻律の決まりがなくふだん話すような言葉で自由に創られるところにその特徴をもっている。それゆえ、何をもって詩とする(詩になる)のかは、誰にでもはっきりと分かる形では共有されてこなかったという問題点も同時に抱えることになった。

本書の第1章では、そうした日本の詩が詩となるために必要となる要素であり、かつ国語科の学習指導においても取り上げることが可能な要素を二点提案した。その一つは「異化」であり、もう一つは「創作のレトリック」である。本書の第2章では、これら「異化」と8つの「創作のレトリック」を必要な要素として、小学校の国語教科書に掲載されている詩(少年詩)と子どもが創作する児童詩とを指導するためのポイントと具体例を詳述した。その他、第3章以降では、第2章で示した8つの「創作のレトリック」を選定・抽出するうえで参考としたこれまでの児童詩教育実践史について、その創生期から現在までの歴史の概要や1960年代以降の児童詩教育史文献年表なども記述・掲載しており、この分野の基礎研究としても活用できる。

小学校の教室で詩教育実践に取り組む教師、詩教育の理論的基礎や児童詩教育の歴史的展開などをテーマとする研究者などを読者として想定している。



国語教育講座 教授
児玉 忠

学生の読書室



突然に出現したペンギンの謎。
明るく優しいタッチで描かれる、恋と冒険の物語。

『ペンギン・ハイウェイ』

森見登美彦、角川書店、2010年5月



初等教育教員養成課程
子ども文化コース2年

岡崎 眞優

主人公であるぼく・アオヤマ君は、研究熱心な小学四年生の男の子だ。いつもノートを持ち歩き、気が付いたことをメモして、研究する。クラスのいじめっ子の研究、近所の森の研究、アオヤマ君が気になっている歯科医院のお姉さんの研究など、その研究内容は多岐に渡る。

ある日通学路を歩いていると、途中通りかかる空き地にたくさんのペンギンがいることに気がつく。驚き動かない子たちをよそに、ぼくはそばへ寄るが、ペンギンはこちらの方をちっとも気にしない。繰り返しペンギンが街に出現する中、ぼくは歯科医院のお姉さんがペンギンを作り出していることを知る。お姉さんは何者なのだろう？

この作品は、ベストセラーである『夜は短し歩けよ乙女』の著者・森見登美彦の作品である。日常の中で起こる不思議な出来事を、ぼくとお姉さん、友達と解き明かそうとする姿や情景が、森見ならではの明るく優しいタッチで描かれる、恋と冒険の物語だ。



何かを得るためには、何かを失わなくてはならない。

『世界から猫が消えたなら』

川村元気、マガジンハウス、2012年10月



初等教育教員養成課程
国語コース3年

小松 倫子

30歳、郵便配達員、余命あとわずかの“僕”。ある日突然、目の前に自分と顔がそっくりの“悪魔”が現れ、寿命を延ばすためのある取引を持ち掛けられる。それは、1日の命と引き換えに世界から1つだけ何かを消すこと。この日から“僕”は生きるために1日1つ、世界から何かを消していくことを決めた。

映画プロデューサーでもある川村元気さん初の著書であるこの本は、佐藤健さん、宮崎あおいさん主演で映画化しています。映画版とは少し違い、原作では“悪魔”がアロハシャツ姿でお調子者キャラのせいか、軽快で笑ってしまう場面もある。それなのに、「生きるとは?」「自分が生まれてきた意味とは?」といった人生哲学のようなことを深く考えさせられる本です。

「何かを得るためには、何かを失わなくてはならない。」“僕”は余命わずかな人生の中で、何を失い、何を得的のか。今生きている人にこそ手に取っていただきたい一冊です。

原稿大募集

「これら：宮城教育大学附属図書館ニュース」は皆さんの投稿で成り立っています。特に「学生の読書室」は、学生の皆さんにお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。読後の感想や想いをこの場で表現してみましょう。下記の必要事項を記入の上、Eメールに文書を添付してお送りください。いつでも原稿募集中。ご投稿お待ちしております。

必要事項

- コース・専攻、学年、お名前、連絡先
- 紹介したい本のタイトルとその著者名、出版社、ISBN
- 紹介文(400字程度)

提出方法

- 次のメールアドレスあてに提出してください。
toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

注意事項

- これら次号は7月発行です。 原稿は、これら編集委員会で選定の上、掲載します。
- 採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。

子ムエの本棚



子ムエの本棚は、児童書に関する話題をお届けするコーナーです。今回は、仙台市における子ども読書活動推進について理解を深めることを目的のひとつとして、仙台市民図書館の取組みに焦点を当てたスパイラル・セッションの内容を報告します。ご講演くださった仙台市民図書館の村上佳子館長からもメッセージをいただきました。

仙台市図書館の取組み —— 0歳から読書に親しむ暮らしのために

仙台市は、平成29年1月に「仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）」（計画期間：平成29年度～33年度）を策定・公表しましたが、この計画を進めるにあたって大きな役割を果たしているのが仙台市図書館です。仙台市図書館の活動を具体的に知るために、附属図書館では平成30年1月9日（火）に、仙台市民図書館長の村上佳子氏を講師に迎えて、スパイラル・セッション「仙台市図書館の取組み——0歳から読書に親しむ暮らしのために」を開催しました。仙台市図書館の歴史や取組みをめぐる充実した講演の概要を、大学院教育学研究科（修士課程）・教科教育専攻・国語教育専修の学生が報告します。



講師・仙台市民図書館長
村上佳子氏

1 仙台市図書館の概要

今回の講演は、仙台市図書館の概要をめぐる次のような説明から始まりました。

仙台市図書館は、昭和37年10月に仙台市民図書館が開館して以来、仙台市内に展開していき、現在は市民図書館・泉図書館・宮城野図書館・若林図書館・太白図書館・榴岡図書館・広瀬図書館の7か所の図書館から構成されています。蔵書はおよそ190万冊で、この数十年間に開館当初の4,654冊から増えました。

1980年代以降は、図書館が大きく進展した時期と言えます。現在は「仙台市図書館振興計画」（第一次：平成24～28年度、第二次：平成29～33年度）を受けて、「地域・市民に役立つ、ともに成長を続ける図書館」を「目指す図書館像」とし、その実現へ向けて以下の四つの方針を掲げています。

- ① 地域の創造性を継承・発展させるとともに、市民の課題解決や探求的活動を支援する地域・市民に役立つ図書館

- ② 子どもの年齢や障害の有無に応じたサービスを行う、0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館
- ③ 誰もが使いやすく、どこに住んでいても情報が身近に届く、市民一人ひとりに利用しやすい図書館
- ④ 自らの変革を進める図書館

これらの「目指す図書館像」の実現のために、様々な取り組みが行われているとのことでした。

2 地域や市民に役立つ図書館となるために

続いて、図書館のサービスに関して、具体的に教えていただきました。

貸出サービスには3つの種類があるそうです。「個人貸出」、「団体貸出」、「リクエスト」がその三本柱です。

「個人貸出」は個人（仙台市在住・在勤、仙台都市圏14市町村在住の方）へ向けたサービスで、図書7冊、視聴覚資料2

点までを2週間借りることができます。「団体貸出」は5人以上のグループを対象にしたサービスで、1か月、図書30冊まで借りることができます。読書会や研究会を行うときには、この貸出が便利です。「リクエスト」は貸出中の図書や所蔵していない資料(図書10冊、視聴覚資料3点まで)の予約サービスです。インターネットを利用した検索や予約もできます。

他にも、調べ学習の際に役立つ「レファレンスサービス」というサービスがあるので、ぜひ活用してください、とのことでした。

【特色のある資料】

● 郷土資料

仙台市を中心に旧仙台領の資料、同地域の出身者・在住者に関する資料を収集・提供しています。約50,000点を所蔵しています。

● 震災文庫

後世に継承していくため、東日本大震災に関する資料を幅広く収集しています。約10,000点を所蔵しています。「震災文庫」の資料を紹介するコラム「3.11 震災文庫を読む」を『仙台市政だより』で連載中。

3 0歳から読書に親しめる 読書文化を育む図書館となるために

子ども読書活動の推進に関しては、環境設定の工夫から読書推進事業、地域や学校との連携活動まで、特に詳しくお話を伺うことができました。

各図書館には、幼児や児童を主な対象とした児童書のコーナーがあるそうです。このコーナーには、絵本や紙芝居、図鑑や読み物など、子ども向けの資料を揃えています。

また、仙台市図書館では多くの「子ども読書活動推進事業」が行われているとのこと。その1つが、毎週水曜日に開催されている「定例おはなし会」です。幼児から小学校低学年を対象に、読み聞かせ・紙芝居・手遊びなどが行われています。加えて、毎月第1水曜日には、0歳～2歳児を対象にわらべうたや手遊びなどを中心に行う「あかちゃんおはなし会」が開催されています。そのほか、ボランティアグループの協力を得て毎月定期的に開催されている「おはなしパーク」などもあり、多くのイベントが子どもの読書活動推進のために行われています。「子どもに対して、絵本の力を借りて、普段は使わないような優しい言葉を語り掛けることに大きな意味がある」のだと、村上館長はおっしゃっていました。

子どもだけでなく、いわゆる子どもと大人の中間であるYA(ヤングアダルト)世代の読書支援も行われているとのこと。中学・高校生へのオススメ本情報や、図書館からのメッセージ等をホームページで発信していて、図書館の棚づくり・オススメ本リストの発行などの中学・高校生による「図

書館サポーター」活動も行われています。

さらに、地域の読書活動支援も数多く行われています。家庭や集会所で地域の子どものために本の貸出や読み聞かせなどを行っている「文庫」を対象に、まとまった本の貸出を行ったり、施設・団体・個人向けに「子ども読書支援パック」(絵本・紙芝居・手袋人形・パネルシアターなどを、テーマや対象ごとにパッケージにしたもの)の貸出を行ったりしています。古くなって除籍される図書を有効活用すべく、小学校や保育所等に無償で提供するサービスも行われています。

そして、仙台市図書館は「学校連携事業」にも力を入れています。朝読書用パッケージ、テーマ別パッケージ、教科指導用など、まとまった冊数の図書を1～2か月間、希望する学校に貸し出す「学校貸出」というサービスがあります。図書館員が学校を訪問して「ともだち」「夢・職業」などのテーマに沿って図書を紹介する「ブックトーク」(市内全小学校の4年生を対象に実施)も行われています。図書館の利用方法、オススメの図書などを紹介した「小中高校新1年生向けパンフレットの配布」もしています。このほかにも、「児童文学者講演会」、「こども読書フェスティバル(春・秋)」、「小学生一日図書館員」、「夏休み工作教室」、「おはなしジャンプ」、「子どもの本の企画展示」、「親子で楽しむわらべうたの会」、「DVD上映会」などが行われているとのことですので、興味がある方は、ぜひチェックしてみてください。

以上に加え、今回の講演を通して、仙台市図書館には次のようなサービスがあることも知りました。①移動図書館車を運行、市内76か所を2週間ごとに巡回する「図書館遠隔地へのサービス」、②高齢者向けの資料展示および行事の実施、大活字本資料の充実を図るなどの「高齢者向けサービス」、③視覚障がい者の方への朗読サービスや、心身に障がいがあって図書館に来館することが困難な方へ資料を郵送するサービスなどの「障がい者向けサービス」。

このように、仙台市図書館では市民一人ひとりに利用しやすい図書館であるための多くの取組みがあるのだと分かりました。



講演会の様子



4 自らの変革を進める図書館となるために

最後に、仙台市では自らの変革を進める図書館を目指しているとのことで、仙台市図書館の今後の展望のお話がありました。

よりよいサービスを提供するために、現在、ボランティアの活動が各館で増加していますが、今後はさらに市民が積極的・自主的に参加できる環境づくりを進めていくそうです。また、博物館・美術館・文学館・天文台などと連携した様々な講座も開催予定とのことでした。

仙台市図書館では、視覚障がい者向けの音声資料製作や子どもへの読み聞かせ講座の開催、ブックトークボランティアの養成と学校への派遣などを行ったり、小学生の図書館利用学習、中学生の職場体験、大学生のインターンシップ、障がいのある方の就労実習等の「図書館体験」を行ったりと、様々な活動支援も行われています。また、市民の声を活かした図書館運営のために、利用者懇談会、意向調査等の実施、意見箱や日常的なコミュニケーションによる継続的な改善も進められています。市民の意見を尊重しながら、よりよい図書館へと発展していくという姿が見受けられました。



5 まとめ

今回のスパイラル・セッションでは、図書館ではこんな取り組みもしていたのかという驚きや発見が多数あり、とても興味深いお話を伺うことができました。ただの「本貸し屋」ではない、これからの図書館の在り方について深く考えさせられ、また今後私たちがどのように図書館を活用していくかという課題にも向き合う機会となりました。

講演の中で村上館長は、仙台市における教育最大の課題として「いじめ問題」を挙げ、中井久夫『アリアドネからの糸』（みすず書房、1997年8月）から「いじめの政治学」を紹介してくださいました。教育大学の学生が聞き手であることを意識して挿入してくださったこのお話も、教育課題解決の手がかりが書物から得られることの例として、強く印象に残っています。いじめか否かの見分け方を知りたい、いじめについて考えたいという方は、一読してみてもいいかもしれません。

結びとして、講演の最後にいただいた村上館長のメッセージを紹介して今回のスパイラル・セッションの報告を終わります。

これから学校の現場、あるいは違う現場でも、いろんなそこの組織のやり方があると思います。(そこで)積み上げてきたものがあります。それをいきなり変えようとか、これは違うとか言っても、絶対上手く行かないので、自分の中で何かを蓄積しつつ、迷ったときには本を読んだり調べたりしながら、社会人として、あるいは教員として実績を積み重ねて、子どもと寄り添っていけるような先生を目指して欲しいと思います。子どもが本を読むことが目的なのではなくて、子どもが生き抜いていくこと、子どもがちゃんと自分で生きていけること。そのために、本があれば何かプラスになるのではないのでしょうか。

(大学院国語教育専修1年：遠藤優太、郭麗、管旭、同2年：Vo Thi Hong Ha)

平成30年1月に新しくなった仙台市図書館のホームページ。仙台市図書館が行っている詳しいサービスの内容や図書館の案内、イベントなどの情報は、次のURLをご参照ください。

<https://lib-www.smt.city.sendai.jp/>

仙台市図書館の本を宮教大の図書館に取り寄せることもできます。詳細は図書館までお尋ねください。





仙台市にある各図書館の特徴

● 市民図書館(せんだいメディアテーク内)

郷土資料・参考図書が豊富な図書館で、児童書フロアが2階、一般書フロアが3階、郷土・参考図書フロアが4階とそれぞれ独立。

● 広瀬図書館(広瀬文化センター内)

図書資料、視聴覚資料、新聞、雑誌が1フロアにあり、コンパクトにまとまっている図書館。

● 宮城野図書館(宮城野区文化センター内)

各種辞典類など参考資料が豊富で、弱視の方のための拡大写本を作成・提供している。

● 榴岡図書館(パルシティ仙台内)

仙台駅から徒歩圏内にあつて、どこからでもアクセスが良く、気軽に立ち寄れる便利な図書館。

● 若林図書館(若林区文化センター内)

公園に隣接する静かな環境の中に建つ図書館。旅行ガイドや家事などの実用書や、農業・園芸関連の本が豊富。

● 太白図書館(たいはつくる内)

地下鉄長町駅と直結しているほか、バスやJRの駅にも近く、交通の便が良い図書館。太白区内に1つの分室がある。

● 泉図書館・子供図書室(泉区泉中央)

児童書や児童書研究書が豊富な図書館。泉区内に9つの分室がある。子供図書室が併設されている。

※ 仙台市図書館のホームページより



市民図書館



泉図書館・子供図書室

宮城教育大学の学生の皆さんへ

図書館の可能性

仙台市民図書館長 村上 佳子

学校には必ず図書館があります。少し古い本が多いかなあと思ったとしても、長く読み継がれた本の中には、新たな発見や心に響く言葉があふれています。入学前の暮らしでは、本と触れ合う機会に恵まれなかった子どももいるかもしれません。学校生活の中では、一人ひとりの子どもが自分に合った歩調で図書館を訪れ、読書に親しめるようにお願いします。

図書館は、子どもの生きる力を静かに支える可能性を持っていると思います。



図書館と本のイトセトラ

et cetera

第5回

図書館のなかの
ドラマ (4)

図書館や本をめぐる話題から毎回、テーマを決め、さまざまな本・作品を取り上げます。
今回も前回に引き続き、図書館のなかで起こる「ドラマ」を描いた作品を紹介します。



■ 住野よる 『君の臍臓をたべたい』

双葉文庫、2017年4月

インパクトあるタイトルからは想像もつかないほど、心打つ作品です。余命一年という咲良の秘密を知る唯一の存在の『僕』。彼が担当する図書委員に立候補した咲良は、真実を知ってもなお普通に接してくれる『僕』との大切な時間を過ごしていきます。やがて咲良が最期を迎えたとき——、二人はお互いをどう思っていたのかを知ることになります。それは友達や恋人ではなく「君の臍臓をたべたい」と表現されていたのでした。読後、あなたはきっと「臍臓をたべたい」相手を思い浮かべてしまうことでしょう。



■ リチャード・ブローティガン 『愛のゆくえ』

青木日出夫訳、ハヤカワepi文庫、2002年8月

静かで不思議な図書館で働く「わたし」。その図書館には、幼い子どもから老人まで、普通の人々が訪れては、自分で書いた一冊の本を置いていく。そんなある日、図書館にとっても美しい女性が本を携えてあらわれる……。原題は「abortion」。このタイトルにはさまざまな象徴的な意味が込められているだろう。著者のブローティガンは、アメリカの1960年代から70年代を代表する作家・詩人。繊細で寓話的な作風が特徴であり、村上春樹や高橋源一郎の初期の小説にも大きな影響を与えました。1984年、ブローティガンは衝撃的なピストル自殺で亡くなりました。



■ 井川ゆり子文・絵 『ポチポチのとしょかん』

文溪堂、2003年11月

「いつも」の図書館で本を読み尽くしてしまい退屈していたぼくは、ポチポチくん連れられて「ポチポチのとしょかん」へ行きます。そこでは沢山の動物たちがヘンテコな本を読んでいた。ぼくも皆と一緒に夢中で読んでみると、一冊の不思議な本を見つけます。その本にかかれていた内容とは……。表情豊かな絵が印象的なとても可愛い絵本です。



■ ローレンツ・パウリ文、 カトリーン・シェラー絵 『としょかんのよる』

若松宣子訳、ほるぷ出版、2013年10月

人々が寝静まったあと、夜の図書館にやってくるのはキツネやニワトリやネズミ達。普段は敵同士の動物たちですが、本を読むことを通じて徐々に心を通わせていきます。私達の知らない夜の図書館で今日はどんな素敵なことが繰り広げられているのでしょうか。

編集後記

早いもので「こもれび」春号の発行となりました。新入生の皆さん、宮教大の図書館は普段どんな活動をしているのか、どんな特徴を持った図書館なのか、「こもれび」を通して少しでも知っていただけたら嬉しいです。

分からないことはどんどん学修サポーターに相談して、図書館を有効に活用してくださいね。カウンターでお待ちしております！

本誌の内容や宮城教育大学附属図書館の活動・運営に関するご意見・ご要望がありましたら、図書館カウンターまたは下記の連絡先までお寄せください。



宮城教育大学附属図書館

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL: 022-214-3350

E-mail: toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

こもれび No.132

附属図書館オフィシャルサイト

<http://library.miyakyo-u.ac.jp/>

【編集発行】

宮城教育大学附属図書館
運営委員会



このパンフレットは環境に
配慮した「水なし印刷」により
印刷しております。



環境にやさしい植物油インク
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。